



心温かな台湾の釣友との交流を通じて

柴草 高一 EZFF 協同管理人・日本代表

ここ3年くらい、主に facebook を通じて台湾の釣友との交流を続けているが、その交流の懸け橋となってくれた魚がいる。読者の皆様は『オイカワ』（台湾では溪哥）という魚をご存知だろうか？

日本では南は九州から北は東北までの河川の中下流域に生息しているコイ科の小さな魚（最大でも20cm程度）であり、台湾や朝鮮半島にも生息する。産卵期になると、この写真のように鮮やかな婚姻色を身にまとう。不幸にも『雑魚』と一括りにされてしまう魚ではあるが、毛鉤で釣ると何とも面白い魚なのである。

毛鉤釣りには幾つかのスタイルがあるが、筆者が愉しんでいるのは Fly Fishing（フライフィッ

シング：以下、FF）である。FF と言えば主に鱒類が対象魚となり、釣り人のお洒落な姿恰好や釣りに関する蘊蓄の多さ等も起因して何だか高尚なイメージを思い浮かべる読者も少なくないかもしれない。

オイカワは羽虫などの昆虫を積極的に食するため、蚊やカゲロウなどに似せたフライ（毛鉤）を投じることで鱒類と同様に FF で釣ることができる。鱒類であれば遥か遠くの溪流に出向く必要があるが、オイカワを初め、カワムツ、ウグイ、アブラハヤ、コイ科の割には肉食性であるハスであれば、都心近くの比較的身近な川でも FF で釣ることができる。特に高価な道具を揃える必要は全くなく、子供や女性でも気軽に愉しむことができる。

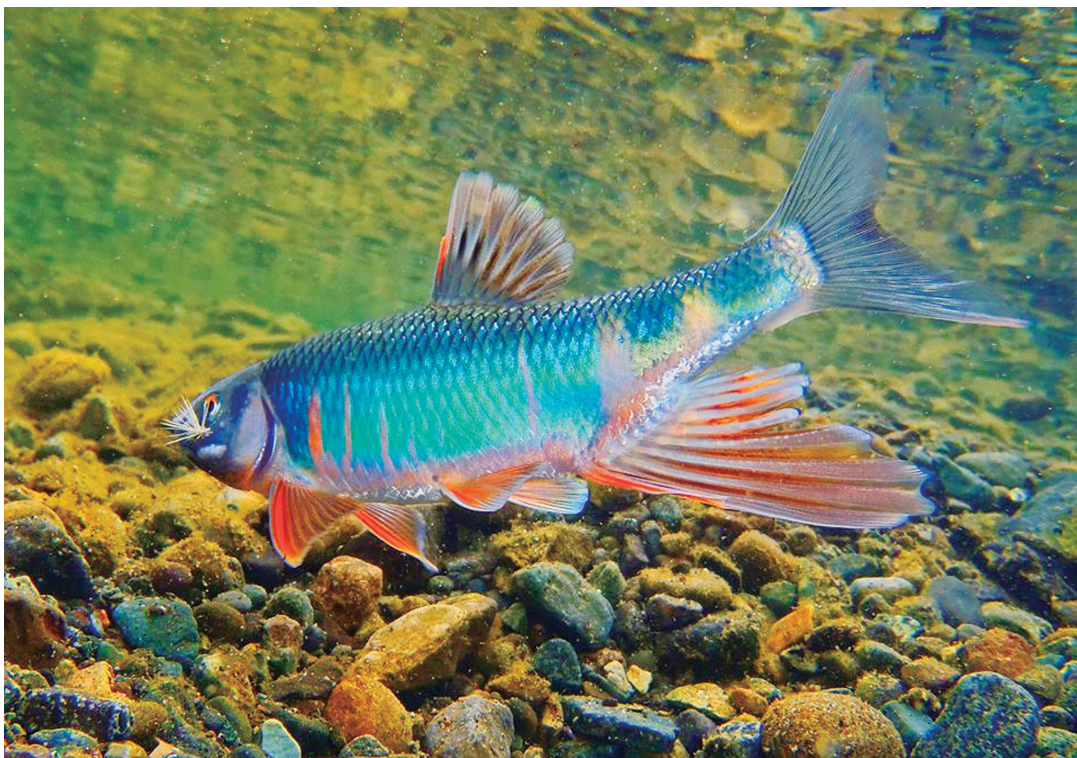


写真1：婚姻色のオイカワ（写真提供：中村正人氏）

私はこのスタイルの釣りを、『Zacco FF』(以下、ZFF)、と呼んでいる。

ちなみに、オイカワの学名は『Zacco Platypus』であった(筆者注:近年になってハス属へと見直され、現在は Opsariichthys Platypus となっている)。1902年に Jordan & Evermann という2名の学者により名付けられた。日本人が雑魚と呼んでいるのを聞いて Zacco と名付けられたとする説もあるが、どうも実際には異なるようである。このあたりの真偽はさておき、私は『雑魚』に似たこの素敵な学名を借りて、FFで釣ることができるオイカワを主とした鱒類以外の対象魚に愛着を込めて『Zacco』と総称している。

この ZFF というものは極めて面白い。筆者自身も ZFF を始めてまだ4年くらいなのだが、全く飽きることはなく、むしろ、益々と深みにハマっていくばかりである。比較的簡単に釣れるとは言え、実は極めようとするとかかなり難しい。例えば、上流側に向けて投じたフライに反応する魚を上手にフッキング(針を魚の口にかけること)しようとするると意外に難しく、タイミングを合わせるために力を入れ過ぎると魚が小さいが故に空中を飛ばしてしまう。鱒類に比べると捕食する瞬間的時間は極めて短く、タイミングを逸するとすっぽ抜けてしまう。時合(魚が餌を良く食べ始めるタイミング)は常に変化し、なかなか釣れない状況の中で様々な種類のフライの中からどれを選択するべきか、あれこれと想いを巡らせることも楽しい。

この ZFF という趣味を持つ釣師は本邦では間違いなく少数派である。『オイカワなんか鱒の禁漁期間にちょっと箸休めに行く程度。そもそもそんな魚を FF で釣っても面白くない』、と言う釣師の方が多いかもしれない。しかし、私は ZFF を極めようと思えば鱒類に負けないくらい面白く

奥深いものであり、もしも ZFF を極めることができれば、どんな FF スタイルにも順応できるようになるのではと思っている。

そして、その ZFF に熱くなっている国が身近にあることを4年前に知った。その国とは、他でもない台湾である。

私は『Blue Heron』という工房で製作頂いたロッド(釣竿)を愛用している。その工房は ZFF 専用ロッドを製作している世界でも類稀な工房である。そして、その製作者の岩田雅之氏より、台湾の ZFF が熱いことを教わった。岩田氏のロッドは、日本国内は元より、国を隔てた台湾のたくさんの方にも愛用され続けている。

そして、台湾での ZFF についての詳細を知るきっかけになったのが、『Fly Fishing in Taiwan』という facebook の公開グループである。1500人を超えるメンバーが参加するこのグループを通じて、台湾の釣人の様子や対象魚をたくさん知ることができた。そして、私自身も日本の ZFF を紹介するべく幾つか投稿してみたところ、たくさんの方のメッセージと共に、多くの台湾の方々から facebook の友達申請が届いた。

『友達の友達はみな友達だ。世界に広げよう友達の輪!!』

とっくの昔に終わってしまった某 TV 番組でタモリ氏が良く口にした言葉である。愛竿 Blue Heron により繋がった釣友をきっかけに、Fly fishing in Taiwan はまさにこの言葉通りに台湾の釣友をたくさん齎してくれた。

その中でも最初に懇意に会話するようになったのが、本誌 2016 年 5 月号にご執筆された張書文



写真2 EZFFのトップページ

氏（台湾東海大学・副教授）である。私が愛用している小さなオイカワ専用網（ランディングネット）に興味を示され、極めて流暢な日本語で語りかけてきた。そんな会話を皮切りに更に交流を深めていくことになった。

その交流が決定的となったのは、張氏が学会で札幌を訪れた時である。首尾良く札幌で仕事が入った私は張氏と念願の初対面を果たし、ススキノの居酒屋で楽しいひと時を過ごした。

そしてその後の2014年9月頃、台湾と日本の交流を深めると共に、お互いのZFFの知識を共有し合うことで更なる知見を深めるべく、facebook上にZFF専用の会員制グループを立ち上げようという話になった。

グループ名を決める上で、張氏とのディスカッ

ションに長時間を費やした。幾つものアイデアが浮かんだのだが、最終的に両者が完全に納得できる素晴らしい名前に決定した。

その名は、『Easy Zacco Fly Fishing (EZFF : イージーエフエフ)』

ZFFは一見するとテクニク的にもEasyな釣りではあるのだが、一方でその奥深さは侮れないものがある。Easyを日本語にすると『楽』という意味を持つが、近所の川で気『楽』な気分で、小さな魚が多く『楽』しい仲間を齎してくれて、そして皆で大いに『楽』しもう、という感じに、このEasyという言葉にたくさんの『楽』を込めてみた。

徐々に増えるEZFFメンバーと共に楽しく時間を過ごしていた2015年初頭に嬉しいハプニン

グが起きた。台湾への出張話が舞い込んで来たのである。『念願の台湾で ZFF を楽しむことができる絶好のチャンス!!』、と踊るような気持ちになった。一方で極めて難易度の高い仕事ではあったのだが、この仕事も、『台湾で ZFF を楽しんで来い!!』、と背中を押してくれていると前向きに考えることにした。

幸いなことに仕事も成功裏に終了し、『念願の台湾釣行』の機会が巡ってきた 2015 年 4 月 26 日（日曜）の朝。台中市内のホテルのロビーでワクワクしながら待っていると、満面の笑顔の張氏がやってきた。そして開口一番、『昨夜はワクワクし過ぎて眠れなかった・・・』、と極めて愛らしいことをおっしゃった。

張氏の車に乗せて頂き、埔里の清流に到着。釣り支度をしながら川面を見ると、盛んにライズリング（魚が水面の羽虫等を捕食する際にできる丸い波紋）が見られた。『これは絶対に釣れる!!』・・・そう確信してフライを投じたわずか 2 投目に人生初・台湾 ZFF の一尾目の魚とご対面できた。すぐ横の張氏も絶好調で、ほぼ同時に釣り上げたお互いの魚を並べて記念撮影した。

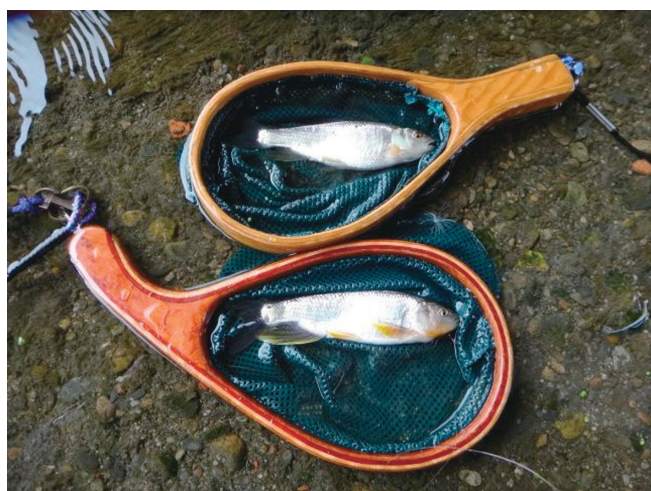


写真3 張氏のランディングネット（下）

実は、張氏のランディングネット（以下、ネット）と私の物は、我が釣友である山梨雅朗氏のご厚意で製作頂いた物である。張氏は、私が facebook に投稿したこのネットの写真に興味を示し初めて声をかけて下さった。張氏との出逢いは、まさにこのネットが齎してくれたと言っても過言ではない。その後、張氏はめでたく山梨氏のネットユーザーとなった訳だが、山梨氏が精魂込めて製作されたネットが海を越えて、『台日友好』を物語る素敵な写真の主役になった。

埔里の後は水里にて、陳嘉賢氏とご対面。陳氏は Zacco の水中写真を得意とし、facebook に投稿された素晴らしい写真の数々を私自身も楽しませて頂いており、兼ねてからとても親しみを覚えていた。

そんな陳氏を交え、憧れの水里での ZFF を存分に楽しませて貰った。陳氏は英語も日本語も話せず、私は英語ならまだしも台湾語が全く話せない。張氏が近くに居れば通訳してくれるのだが、陳氏と二人だけの場合は自ずと『釣語』で会話することになる。この『釣語』が何とも面白く、言葉自体は理解できなくても釣人同士ではなぜか意味が通じ合ってしまう。『釣語』は万国共通の言語であることを体感できた非常に面白い経験となった。

翌日は台北市内で ZFF を楽しむ予定だったが、なんと陳氏が仕事を休んで台北まで同行して下さいとのこと。『台北の日本オイカワを釣ってみたい』とおっしゃっていたが、実は台湾語が全くわからない私を心配して同行して下さいに違いない。しかし、このありがたい申し出に遠慮なく甘えさせて頂くことにした。台中から台北への新幹線車内では、言葉がわからない二人同士でも、お互いの釣りや魚の写真を見せあいながら笑い合い盛り上がる事ができた。このような釣友



写真4 右から、張書文氏、陳嘉賢氏、筆者

同士の国際交流は何とも素晴らしく、私自身にとっても貴重な経験となった。

あっという間に台北駅に到着。ここで我々を待って下さっていたのは張仁文氏（前述の張氏と混同を避けるために、以降は仁文氏と記載させて頂く）。張氏と同様に仁文氏も日本への留学経験がありとても流暢な日本語を話される。そして、台湾に Blue Heron ロッドを広めた立役者でもある。

仁文氏の車に乗せて頂き、同行のご友人と共に瑞芳の清流を目指した。台北市内の渋滞を抜け低山がたくさん見えてきた頃、山間に流れる一筋の清流が目に見え込んできた。ポイントに到着し、逸る気持ちを抑えてロッドを繋ぎ、私もいざ釣行開始。そして、いきなり良型の台湾ハスやオイカワを釣りまくる彼らに感嘆の声を上げた。

ちなみにこの日は月曜日。平日だと言うのに、事前に仁文氏が釣友達にお声掛け頂いていたらしく、徐々に人数が増えあっという間に10名を超えてしまった。その中には仕事をリタイアして台北に移住された日本人も一人含まれていた。異国の地で思いがけず日本人と ZFF を楽しむ・・・、つくづく何とも不思議な縁だと思う。

名前もわからない釣友が冷たい水を差し入れて下さったり、仁文氏は台湾おでんやかき氷を振る舞って下さったり、まさに至れり尽くせりの歓待を受け、その都度、『謝謝』を繰り返した。相変わらず台湾語は全くわからなかったが、心温かな台湾の釣友達は笑顔と『釣語』で色々とアドバイスして下さいました。

台中から同行して下さいました陳氏も、念願の日本オイカワを釣り上げた。私が日本で見慣れた見事な婚姻色のオイカワに陳氏も嬉しそう。

ちなみに、日本の釣友の間では、見事な婚姻色に染まったオイカワを『韋駄天』と呼んでいる。その煌びやかな姿と、針がかりすると元気良く走ること等に因んで、我が釣友の吉田弘氏が命名された。台北市内の川には日本オイカワが多数生息しているが、台中では台湾オイカワばかりらしい。日本から鮎を持ち込み台北市内の川に放流した際に、日本オイカワが紛れ込んだと言われている。願わくば、お互いの生態系に悪影響を及ぼさず、台湾の釣友を楽しませる存在になってくれていると嬉しいと個人的に思っている。

そして、陽も傾き始めた頃、私もついに念願の魚に出逢うことができた。その魚とは、婚姻色に



写真5 婚姻色の日本オイカワを釣り上げた陳氏



写真6 婚姻色の台湾オイカワ

染まった台湾固有種のオイカワ。あまりの美しさにしばし呆然と見惚れてしまった。

楽しい時間はいつもあっという間に終わってしまう。釣友達も岸に上がり始めたので、この一尾を最後に納竿（釣りを終えること）。そして、愛しき台湾の釣友達と共に記念撮影を楽しんだ。

心温かな台湾の釣友に囲まれ、間違いなく我が釣り人生の中で最高峰に位置する素敵な思い出を作ることができた。愛竿 Blue Heron と小さな Zacco が齎してくれた台湾の釣友との素敵な縁を噛みしめつつ、仁文氏の愛竿と共に、心を込めてカメラのシャッターを押した。題して、『台日友



写真7 左から3番目が張仁文氏、右から4番目が陳嘉賢氏、一番右が筆者



写真8 台日友好・愛竿 Blue Heron の記念撮影

好 Blue Heron Rods と ZFF が齎す素敵な国際交流』（写真8 右が張仁文氏の愛竿）。

またいつの日か必ず、台湾の Zacco と素敵な釣友に再会したいと思っている。その時が来るまで台湾の皆様こんなメッセージで本稿を締めくくりたい。

『Tight Lines !!』（良い釣りを！！）

謝辞 張書文氏と張仁文氏の両氏と知り合えたことで、『念願の台湾釣行』が実現できた。この場をお借りして、両氏には心からお礼を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。そして、日本で共に釣行できる日を楽しみにしています。

追記 拙ブログ『湧水が育む美しき里川で Zacco Fly Fishing』に、『念願の台湾釣行』というタイトルで全六部作の釣行記を綴らせて頂いています。ご興味ある方はご訪問頂けましたら幸いに存じます。ブログの URL は、<http://naturearoundme.blog.fc2.com/>、『念願の台湾釣行』という検索ワードでもご訪問頂けます。